

POINT

うるま市のまちづくりの6つの基本目標

1. みんなで支えあう健やかなまちづくり
2. 子どもがいきいきと育つまちづくり
3. まちの活力を生み出す産業づくり
4. 自然と調和した快適で暮らしやすいまちづくり
5. 郷土に誇りをもち未来を拓く人づくり
6. 市民と行政が一体となった協働によるまちづくり



また、うるま市初のネーミングライツが導入され、石川野球場は「エナジックスタジアム石川」となりました。

昨年10月には、本市と沖縄振興開発金融公庫との間で、地域開発に関する助言業務協定の提携が行われました。今後は、民間活力を活かした公民連携手法等、戦略的な事業展開を図り、令

業を展開しております。

また、世界遺産の勝連城跡につきましては、平成12年の世界遺産登録以降の入場者数が200万人を超え、順調な伸びを見せております。

昨年10月31日に、沖縄県の象徴たる「首里城」が焼失しました。

今後は、再建に向けた支援はもとより、観光満足度が低下することのないよう、勝連城跡への誘客とあわせ、中高生を中心とした現代版組踊「肝高の阿麻和利」などの本市の魅力ある観光コンテンツのPRを積極的に展開してまいります。

さらに、沖縄振興特定事業推進費を活用し、「肝高の阿麻和利」の拠点施設である「きむたかホール」の機能強化を行い、入域観光客受け入れの拡充を図ってまいります。

その他、市内の動向としましては、島しょ地域の情報通信環境の改善を図るため、超高速ブロードバンドが整備されたことにより、移住・定住及び企業の誘致等が促進されるものと期待しております。

この3つの基本政策を中心とした様々な取り組みを通じて、市民と行政が一体となった協働によるまちづくりを実現してまいります。

和という新しい時代のまちづくりに果敢に取り組んでいく所存でございます。

ここまで、私の市政運営に対する基本姿勢や社会情勢等の所感を述べてまいりました。

ここからは、本市の将来像である「愛してます 住みよいまち うるま」の実現に向け、第2次総合計画で掲げる各施策と、私の3つの基本政策を推進するため、令和2年度の予算並びに主要事業の概要について説明いたします。

3 令和2年度の予算規模

はじめに、予算の概要を説明いたします。

令和2年度の予算編成にあたりましては、「第2次うるま市総合計画」及び「3つの基本政策」、「第16回実施計画」等を踏まえ、各施策の目標達成に取り組みとともに、「第4次行政改革大綱」に基づき、行政改革の実施に努め、限られた財源を効果的に活用することを基本に予算編成を行っております。

その結果、令和2年度の一般会計予算は、601億8,949万1千円となり、前年度に比べ3.6%の減となっております。特別会計予算などを含めた総予算額は、954億1,911万9千円となります。

また、本市の沖縄振興特別推進交付金の令和2年度の基本配分額は、11億2,000万円となっております。引

4 主要事業の概要

次に、令和2年度主要事業の概要については、まちづくりの指針となる「第2次うるま市総合計画」に掲げる6つの基本目標ごとに説明いたします。

1 みんなで支えあう 健やかなまちづくり

地域福祉については、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市社会福祉協議会や民生委員、児童委員との連携を強化し互いに助け合える地域社会を推進します。

生活保護については、適正実施に努めることともに、要保護者及び被保護者の自立に向けた支援を推進します。

また、今年度から新たに、「被保護者健康管理支援事業」を実施し、被保護者の健康の保持、増進に取り組みます。

さらに、「自立相談支援事業」や「住居確保給付金事業」、「学習支援事業」などを引き続き実施し、生活保護に至る前の自立支援に加え、貧困の連鎖防

POINT

市長の3つの基本政策

1. 教育・子育て支援の拡大
2. 地元企業育成と誘致
3. 経済の活性化と失業率の改善



地区の国際物流拠点産業集積地域を中心に230社余りの企業が立地し、就業者総数は約6,190人を超えております。

同地区内では、県内最大級の物流センターの稼働や建築資材関連事業者などの立地が進んでおり、県内初のバイオマス発電所の建設も着手され、今後、中城湾港新港地区事業者及び地域への電力供給が可能となるなど、本市へのさらなる経済波及効果が期待されております。

企業集積が進み、重要性が増している港湾及び物流の機能強化を図るため、中城湾港新港地区東ふ頭整備の着実な進展を国、県へ積極的に要請いたします。

また、さらなる産業集積地の形成を図るため、産業基盤基本計画を策定するとともに、中城湾港新港地区の東ふ頭における大型貨物船及び定期航路の就航の実現に向けた取り組みを引き続き推進いたします。

3 経済の活性化と失業率の改善

経済の活性化と失業率の改善については、これまで、商工業や観光、農業、水産業など、各分野のビジョンを策定し、経済振興策に取り組んでまいりました。

現在、石川地区へ大型商業施設が建設中であるほか、県道33号線沿線では、多

くの商業施設が進出しており、市内外からの買い物客等で賑わっております。

なかでも、平成30年11月にオープンした「農水産業振興戦略拠点施設うるマルシェ」は、オープン以来100万人を超える来客をいただき、これからも「食」を通じて様々な相乗効果を生み出し、農水産業に限らずうるま市の魅力をPRし、地元農産物の消費拡大及び農水産業従事者の所得向上に向けた取り組みを行ってまいります。

本市の完全失業率につきましては、これまでの雇用促進に関する様々な取り組みの効果もあり、大幅に改善されました。今後は、依然として高い失業率である若年層に対する就業支援や、就業意欲を高めるためのキャリア教育等を実施し、さらなる雇用の拡大に努めてまいります。

この3つの基本政策を中心に取り組んできた成果として、子育て環境の整備が行われたほか、市内に活気が生まれ、商業施設等の相次ぐ立地に繋がっております。

本市のさらなる発展のため、引き続き、3つの基本政策を中心とした様々な施策に果敢に取り組んでまいります。

令和元年度の振り返り

さて、昨年を振り返りますと、多くの児童生徒や若者が文化・スポーツの分野で活躍し、私たちに明るい話題を

提供してくれました。

ケンケン体操・トランポリンクラブの高良心菜さんがトランポリンの世界選手権で7位という快挙を成し遂げ、また、高江洲小学校及び具志川中学校が「マーチングバンド全国大会」でそれぞれ金賞、銀賞を受賞しました。そして、赤道小学校の宜名真幸大さんが「全日本球算選手権大会」で小学生日本一となり、アミークスインターナショナル小学校チームが「ロボットコンテスト」で全国制覇するなど、目覚ましい活躍がありました。

さらに、地域の取り組みが認められる嬉しい話題もありました。南風原地域の子ども達を中心となって企画した「勝連城跡復活プロジェクト」が「地域イベントアワード」で最優秀賞を受賞したことや、「あまわり浪漫の会」が、地域の活性化に貢献したとして「琉球新報地域活動賞」を受賞しております。

また、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、本市出身の喜納翼選手も、今春開催予定のワールドカップで上位入賞しますと、東京パラリンピック代表候補選手として内定します。喜納選手の活躍を大いに期待しております。

本県のリーディング産業である観光については、入域観光客が過去最高を更新しております。本市においても、去る10月に行った「闘牛のまち宣言」をはじめ、観光誘客のために様々な事

引き続き、同交付金を活用した各種事業に取り組んでまいります。

なお、勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業の実施分に対しては、特別枠として令和元年度から3年間で計18億円が配分されることになっており、令和2年度は、基本配分額とあわせて、総額17億2,000万円となっております。